



タイムスケジュール

《 11月7日 》

AM					
時間	区分	(男子5x5)			
9:00		オーストラリア	81	vs	76 日本
			(28 27 26 10)		(20 14 24 18)
時間	区分	予選ラウンド(女子3x3)			
10:30	予選	オーストラリアA	21	vs	5 フランス
時間	区分	予選ラウンド(女子3x3)			
11:00	予選	オーストラリアB	9	vs	3 オーストラリアC
PM					
時間	区分	予選ラウンド(女子3x3)			
16:00	予選	フランス	9	vs	11 オーストラリアB
16:30	予選	オーストラリアC	14	vs	16 オーストラリアA
時間	区分	(男子5x5)			
17:00		日本	68	vs	91 オーストラリア
			(11 21 15 21)		(19 18 29 25)

@ Chandler Arena (Sleeman Sports Complex)



《 11月8日 》

AM					
時間	区分	予選ラウンド(女子3x3)			
10:30	予選	オーストラリアC	11	vs	9 フランス
11:00	予選	オーストラリアA	14	vs	9 オーストラリアB
PM					
時間	区分	決勝ラウンド(女子3x3)			
16:00	準決勝①	オーストラリアB	13	vs	8 オーストラリアC
16:30	準決勝②	オーストラリアA	19	vs	6 フランス
時間	区分	(男子5x5)			
17:00		オーストラリア	87	vs	54 日本
			(20 28 17 22)		(9 17 14 14)

@ Chandler Arena (Sleeman Sports Complex)

《 11月9日 》

PM					
時間	区分	決勝ラウンド(女子3x3)			
11:00	3位決定戦	フランス	10	vs	6 オーストラリアC
11:30	決勝	オーストラリアA	12	vs	6 オーストラリアB
時間	区分	(男子5x5)			
13:00		日本	59	vs	82 オーストラリア
			(18 12 13 16)		(23 21 14 24)

@ Chandler Arena (Sleeman Sports Complex)



JAPAN SPORT

COUNCIL

日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

Virtus Oceania Asia Games Brisbane 2022

報告書



JAPAN
BASKETBALL



一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟

Virtus Oceania Asia Games Brisbane 2022

報告

■概要

1. 大会名 Virtus Oceania Asia Games Brisbane 2022
2. 開催地 オーストラリア/ブリスベン
3. 開催期間 2022年11月5日～11月11日
4. 会場名 Chandler Arena Old Cleveland & Tilley Roads Chandler Qld 4155
5. スケジュール
 2022年11月6日 練習
 2022年11月7日 9:00ゲーム#1 / 17:00ゲーム#2
 2022年11月8日 17:00ゲーム#3
 2022年11月9日 13:00ゲーム#4
6. 参加国 オーストラリア、日本（※男子2チームのみ）
7. 派遣名簿



総勢9名

【チームスタッフ】

氏名	役職	所属	所属	都道府県
谷口 英謙	ヘッドコーチ	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	愛知県立豊田高等支援学校	愛知県

【選手】

氏名	P	身長	年齢	所属	所属チーム	都道府県
高山 晃	SF	181.1	31	株式会社いなげや	YOKOHAMA MAJORS	神奈川県
渡辺 稜	PG	178.7	24	株式会社パソナハートフル	TAMA OTP	東京都
渡辺 翔平	PG	170.8	27	特別養護老人ホームにこやか	新潟ライジングサンズ	新潟県
岡庭ペドロカルロス龍之介	C	192.2	21	愛知製鋼株式会社	Green Whales	愛知県
末永 健翔	SG	176.7	22	株式会社 PRIDERun	HEROS	福岡県
神尾 剛史	PF	189.0	21	オリジン東秀株式会社	YOKOHAMA MAJORS	神奈川県
根津 友和	SG	174.1	24	株式会社ムラタ	TAMA OTP	東京都
平塚 天清	SF	180.3	23	株式会社鶴田工業	ブルーホーク	宮崎県
Ave		180.3	24.1			

8. 渡航スケジュール

- 11月3日 15:30 羽田空港第3ターミナル 3階ロビー集合(出発式)
 18:25 羽田空港 発
- 11月4日 6:20 シドニー空港 着
 14:05 シドニー空港 発
 15:35 ブリスベン空港 着
- 11月12日 13:15 ブリスベン空港 発
 16:35 メルボルン空港 着
- 11月13日 8:05 メルボルン空港 発(解団式)
 16:05 成田空港 着(到着後、競技ごとに解散)



■大会総括

ヘッドコーチ 谷口 英謙

第1回ブリスベン2022Virtus オセアニア・アジアゲームスが2022年11月5日から11日までオーストラリア・ブリスベンで開催された。コロナの影響でアメリカ大会中止、第1回大会による参加国不足などの理由で、他エリアからの参加国もあった。バスケットボール競技は、男子は日本とオーストラリア、女子はオーストラリアとフランスの2か国の参加となった。

日本からは陸上・バドミントン・自転車・柔道・水泳・卓球・バスケットボールの7競技、選手39名、スタッフ25名、選手団本部8名の総勢72名で参加した。他競技との交流は、競技会場や競技時間などが異なったため、ほぼなく、開閉会式やパレード、朝食・夕食のみだった。同会場の柔道や水泳については、応援に行くことができた。

オープニングセレモニーは、街を約15分かけてパレードで歩き、会場入りした。パレードの先頭は、日本選手団主将バスケの渡辺選手、セレモニーの旗手は柔道の小林選手が務めた。参加国すべての国旗がそろう、祝辞、儀式、歌など約1時間の催しの後、セレモニーの最後はビルの屋上から上がる盛大な花火で会場は大いに盛り上がった。



宿舎は、1部屋2人で生活するには何も問題のない設備で、不便なく生活することができた。食事は、同ホテルの1階に会場があり、朝夕食を取った。毎回バイキング方式で基本45分の割り当てが各国にあり、競技ごとに済ませた。毎日ほぼ同じメニューだったので、選手と相談し、隣にあったショッピングモールのフードコートでカレーや海鮮丼など食べた。



競技会場は、Chandler Arenaで、ホテルから約45分バス移動をした。移動は、大会専用のバスで、大会関係者が誰もが利用できるバスとなっており、常に大型バスは満車状態だった。乗れない場合は1時間待つこととなり、早めにバス停に待機し、常に9人乗れる状態を作っていた（移動は常に時間を把握し、早めに行動した）。初めの練習が、会場到着後にキャンセルになったと伝えられたが、1時間ほど使わせてくれた。次の練習は女子の練習がキャンセルになったと4時間ほどコートを貸してくれた。試合前のアップは、隣のコートで3×3のゲームを行っている時間に行うもので、声や大きな音を出さないアップを行い、女子が終わり次第、約10分後に始まるような形だった（ゲームレポートは別紙）。



メダルセレモニーは、競技会場の前のセレモニー会場で行われた。同会場で行われたどの競技も同じセレモニー会場を使用した。各競技終了に合わせ、その都度メダルセレモニーを行う形式だった。



ドーピング検査は、水泳3名、卓球4名実施された。慣れないテストで泣き出してしまう選手もあり、実施のタイミングや方法等検討するような話題があった。

クロージングセレモニーは、バスケット会場の奥にある大きな施設で行った。パレードではないが、各国まとまって会場入りし、個人競技のメダルセレモニー、大会のまとめ、次回フランス大会のアナウンスなどがあり、その後、夕食を取り、ホテルへ帰った。

パレードを含め、街の装飾、各セレモニーなど大会を盛り上げる取組は素晴らしかった。今回の男子チームは国際経験の乏しい選手も多く、初めての国際大会の雰囲気呑まれる選手もいた。このような環境でも戦えるチームになるためには、今回の経験を次のフランス大会につなげたいと思う。

今回は、選手8人、スタッフ1人で参加した。ケガや体調不良なく4試合戦うことができたのは、とてもよかった。強い相手を前に、臆することなく最後まで戦えたこと、選手たちに敬意を表したい。より強固なチームを作るため、国内の活動の在り方や選手選考の考え方、選手を取り巻く環境などを見直し、チーム力が向上する準備をしっかりと行いたい。

最後に、今大会に派遣して頂くにあたり、多くの方々に多大なるご協力とご尽力を頂いたことに心よりお礼を申し上げます。

【ゲームレポート】

■ #1

期日：2022年11月7日 会場：Chandler Arena 開始時刻：9:00AM

〈総評〉

JPN 4.5.7.8.10、マンツーマンディフェンス、AUS 4.5.7.10.14、2-2-1 オールコートゾーンディフェンス。圧倒的な高さで、ペイントを支配されリバウンドが取れない。前半はトラップディフェンスに対し、失点もあり、21点差がつく。しかし、トラップディフェンスを替えない AUS は徐々に体力がなくなり、効果がなくなる。早い展開に持ち込めるターンが増え、得点差が減っていく。第4Qに入ると AUS はファウルトラブルになり、点差は一気になくなる。その後、一進一退の攻防が繰り返されるが、リバウンドの取れない状況は変わらず、76-81で敗戦スタートとなる。その中でも今大会が国際大会デビューとなる10番根津選手の勇気あるペイントアタックには AUS もファールでしか止められず、このゲーム12得点とチーム2番目の記録をたたき出した。



〈スタッツ〉

Game1

選手名	P	PTS	FG			3P			2P			FT			F	REB			TO	AST	STL	BLK	MIN	EFF	
			M	A	%	M	A	%	M	A	%	M	A	%		OFE	DEF	TOT							
高山 晃	PF	4	1	2	50.0	0	0	0.0	1	2	50.0	2	2	100.0	2	2	2	4	2	1	1	0	25:11	7.0	
渡辺 稜	PG	12	4	13	30.8	1	6	16.7	3	7	42.9	3	7	42.9	1	0	6	6	2	6	3	0	38:19	12.0	
岡麻斗 DAIKICHI 藤之介	C	7	3	7	42.9	0	0	0.0	3	7	42.9	1	4	25.0	3	2	4	6	2	0	0	2	30:56	6.0	
末永健翔	SG	37	12	30	40.0	7	15	46.7	5	15	33.3	6	6	100.0	2	2	6	8	7	2	8	0	36:57	30.0	
根津友和	SG	12	3	9	33.3	0	3	0.0	3	6	50.0	6	10	60.0	1	0	1	1	1	4	4	0	37:40	10.0	
渡辺翔平	PG	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	1	1	0	1	0	0	7:04	2.0	
神尾剛史	PF	1	0	2	0.0	0	0	0.0	0	2	0.0	1	2	50.0	2	0	2	2	1	0	2	0	9:04	1.0	
平塚天清	SF	3	1	10	10.0	0	2	0.0	1	7	14.3	1	4	25.0	1	2	5	7	0	1	0	0	14:49	-1.0	
TOTAL																1	2	3							
AUS		81	32	72	44.4	10	24	41.7	22	48	45.8	7	11	63.6	30	14	49	63	33	13	5	5	200:00		

■ #2

期日：2022年11月7日 会場：Chandler Arena 開始時刻：5:00PM

〈総評〉

JPN 4.5.7.8.10、AUS 4.5.7.10.14、2 共にマンツーマンディフェンス。このゲームも圧倒的な高さで、ペイントを支配されリバウンドが取れない。力強く1on1で攻めてくる AUS に対し、ヘルプディフェンスで対応し、ファーストシュートは落ちるものの、その次のリバウンドが取れず、失点が増える。また、ドライブを警戒して、スペースを空けると3ポイントシュートを高確率で決められ、差はどんどん増していく。試合終了時には23点差がつき、68-91 でタイムアップ。このゲームでも今大会が国際大会デビューの11番平塚選手が活躍した。持ち前のフィジカルの強さで AUS11番 2m8cm からリバウンドを取ったり、体を張ったプレイでゴールを守ったり、攻めでは思い切りのよいシュートで得点も取った。今度の活躍が楽しみな選手の1人である。



〈スタッツ〉

Game2

選手名	P	PTS	FG			3P			2P			FT			F	REB			TO	AST	STL	BLK	MIN	EFF	
			M	A	%	M	A	%	M	A	%	M	A	%		OFE	DEF	TOT							
高山 晃	PF	0	0	1	0.0	0	0	0.0	0	1	0.0	0	0	0.0	1	1	1	2	0	0	1	0	17:45	2.0	
渡辺 稜	PG	10	3	13	23.1	0	3	0.0	3	10	30.0	4	7	57.1	4	0	6	6	4	4	1	0	33:30	4.0	
岡崎バド DADA 藤之介	C	8	4	6	66.7	0	0	0.0	4	6	66.7	0	2	0.0	4	2	5	7	2	0	2	2	25:30	13.0	
末永健翔	SG	31	10	29	34.5	4	12	33.3	6	17	35.3	7	8	87.5	3	0	3	3	5	4	3	0	38:22	16.0	
根津友和	SG	9	3	8	37.5	0	2	0.0	3	6	50.0	3	5	60.0	0	1	1	2	4	1	0	0	36:45	1.0	
渡辺翔平	PG	2	0	4	0.0	0	2	0.0	0	2	0.0	2	2	100.0	0	0	0	0	1	0	1	0	11:23	-2.0	
神尾剛史	PF	0	0	5	0.0	0	0	0.0	0	5	0.0	0	2	0.0	1	1	6	7	1	1	2	0	14:30	2.0	
平塚天清	SF	8	3	8	37.5	1	2	50.0	2	6	33.3	1	2	50.0	1	1	3	4	2	2	2	0	22:15	8.0	
TOTAL																6	6	12							
AUS		91	36	84	42.9	3	22	13.6	33	62	53.2	16	20	80.0	17	19	44	63	20	11	15	9	200:00		

■ #3

期日：2022年11月8日 会場：Chandler Arena 開始時刻：5:00PM

〈総評〉

JPN 4.5.7.8.10 マンツーマンディフェンス AUS 4.5.7.10.13、2 3-2ゾーンディフェンス。このゲームも圧倒的な高さで、ペイントを支配されリバウンドが取れない。AUSはケガした14番に代わり13番のセンターが入ってきた。AUSにとっては1番効果的なディフェンスとなり、高いリバウンドから、3人で速攻を出すことができる。その攻撃パターンで前半22点差がついてしまった。後半 AUS はベンチメンバーでの戦いとなるが、勢い止まらず今大会最大得点差 33点が付くゲームとなってしまう 54-87。このゲームは AUS 5番にフェイスガードをされた8番末永選手の活躍があった。ここまで2試合ターンオーバーが多めだったが、少ないチャンスを実際に決める集中力を出し、苦しい時間にシュートを決めてくれた。これから日本のエースとなって苦しいゲームを戦ってほしい。



<スタッツ>

Game3

選手名	P	PTS	FG			3P			2P			FT			F	REB			TO	AST	STL	BLK	MIN	EFF
			M	A	%	M	A	%	M	A	%	M	A	%		OFE	DEF	TOT						
高山 晃	PF	0	0	3	0.0	0	0	0.0	0	3	0.0	0	0	0.0	3	2	1	3	2	0	1	0	15:03	-1.0
渡辺 稜	PG	6	2	11	18.2	0	4	0.0	2	7	28.6	2	4	50.0	4	0	3	3	7	6	3	0	38:16	0.0
岡麻友斗 <small>OHMAYUトウ</small>	C	5	2	8	25.0	0	0	0.0	2	8	25.0	1	2	50.0	3	1	7	8	1	1	1	0	24:21	7.0
末永健翔	SG	25	6	26	23.1	3	15	20.0	3	11	27.3	10	13	76.9	3	1	2	3	2	1	4	0	40:00	8.0
根津友和	SG	10	4	12	33.3	0	1	0.0	3	6	50.0	2	2	100.0	2	0	3	3	2	1	2	0	40:00	6.0
渡辺翔平	PG	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	3	0	0	0	0	0	0	0	1:44	0.0
神尾剛史	PF	2	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	2	4	50.0	2	1	4	5	3	1	1	0	15:39	4.0
平塚天清	SF	6	3	8	37.5	0	0	0.0	3	8	37.5	0	0	0.0	3	5	3	8	5	0	0	1	24:57	5.0
TOTAL																	9	9						
		54	17	68	25.0	3	20	15.0	13	43	30.2	17	25	68.0	23	10	32	42	22	10	12	1	200:00	
AUS		87	37	91	40.7	1	16	6.3	36	75	48.0	12	25	48.0	21	29	44	73	20	18	15	7	200:00	

■ #4

期日：2022年11月9日 会場：Chandler Arena 開始時刻：1:00PM

<総評>

JPN 4.5.7.8.10 マンツーマンディフェンス AUS 5.6.7.8.10 3-2 ゾンディフェンス。このゲームは、初めてティップオフ成功し、JPNの先制点からゲームが始まる。AUSはインサイド中心に得点を重ね、JPNはヘルプディフェンスから速攻を中心に攻め、ペリメーターからも積極的に狙う形で、シーソーゲームの展開になる18-23。2QになるとAUSはマンツーマンディフェンスにし、ベストメンバーで入った。ゴール下の支配、積極的にシュートで徐々に点差がついてくる31-44。後半は両チーム、メンバーチェンジを繰り返し、激しい展開となる。ゲーム終盤ファールも多くなり、フリースローの機会が増える。今大会、フリースロー率が悪いJPNはこの流れから点差が離れていく。このゲームは、徐々に高さ慣れてきたNo.7岡庭選手、リバウンド11本と健闘し、今後も日本のゴールを体を張って守ってほしい。



<スタッツ>

Game4

選手名	P	PTS	FG			3P			2P			FT			F	REB			TO	AST	STL	BLK	MIN	EFF
			M	A	%	M	A	%	M	A	%	M	A	%		OFE	DEF	TOT						
高山 晃	PF	2	1	11	9.1	0	2	0.0	1	9	11.1	0	0	0.0	1	7	3	10	1	2	1	0	35:44	4.0
渡辺 稜	PG	4	1	7	14.3	0	3	0.0	1	4	25.0	2	4	50.0	2	0	2	2	2	5	2	0	35:46	3.0
岡麻友斗 <small>OHMAYUトウ</small>	C	8	4	6	66.7	0	0	0.0	4	6	66.7	0	1	0.0	5	4	7	11	2	0	1	1	23:56	16.0
末永健翔	SG	25	9	38	23.7	3	18	16.7	6	20	30.0	4	10	40.0	2	3	5	8	7	2	4	0	37:39	-3.0
根津友和	SG	7	3	6	50.0	0	0	0.0	3	6	50.0	1	1	100.0	2	0	0	0	3	2	1	0	17:05	4.0
渡辺翔平	PG	0	0	3	0.0	0	0	0.0	0	3	0.0	0	0	0.0	0	0	1	1	0	1	0	0	8:14	-1.0
神尾剛史	PF	1	0	1	0.0	0	0	0.0	0	1	0.0	1	2	50.0	2	0	5	5	3	0	0	0	16:04	1.0
平塚天清	SF	12	4	8	50.0	2	4	50.0	2	4	50.0	2	2	100.0	1	2	5	7	2	0	0	0	25:32	13.0
TOTAL																	1	3	4					
		59	22	80	27.5	5	27	18.5	17	53	32.1	10	20	50.0	15	17	31	48	20	12	9	1	200:00	
AUS		82	23	84	40.9	4	21	19.0	19	63	30.2	10	16	62.5	19	20	47	67	20	16	9	3	200:00	

■ TOTAL STATS

〈総評〉

- 課題1 高さ ファーストショットが落ちるも、リバウンドに対応する選手がおらずセカンドショットを決められてしまうケースが多かった。スクリーンアウトを徹底するなど、リバウンド対策は重要である。
- 課題2 シュート率 特にフリースローは 75%以上にする。他のシュートも 10%アップしたい。アウトナンバーの作り方、正確なパス回し、など練習が必要である。
- 課題3 フィジカル 接触プレイに対し、コートに倒れるケースが多かった。接触に強い身体作りはもちろんだが、接触を求めるプレイにも取り組んでいかなければならない。

〈トータルスタッツ〉

TOTAL

選手名	P	PTS	FG			3P			2P			FT			F	REB			TO	AST	STL	BLK	MIN	EFF
			M	A	%	M	A	%	M	A	%	M	A	%		OFF	DEF	TOT						
高山 晃	PF	6	2	17	11.8	0	2	0.0	2	15	13.3	2	2	100.0	7	12	7	19	5	3	4	0	93:43	12.0
渡辺 稜	PG	32	10	44	22.7	0	16	0.0	9	28	32.1	11	22	50.0	11	0	17	17	15	21	9	0	145:51	19.0
岡崎 大ト 助川 誠之介	C	28	13	27	48.1	0	0	0.0	13	27	48.1	2	9	22.2	15	9	23	32	7	1	4	5	104:43	42.0
末永健翔	SG	118	37	123	30.1	17	60	28.3	20	63	31.7	27	37	73.0	10	6	16	22	21	9	19	0	152:58	51.0
根津友和	SG	38	13	35	37.1	0	6	0.0	12	24	50.0	12	18	66.7	5	1	5	6	10	8	7	0	131:30	21.0
渡辺翔平	PG	2	0	7	0.0	0	2	0.0	0	5	0.0	2	2	100.0	3	0	2	2	1	2	1	0	28:25	-1.0
神尾剛史	PF	4	0	8	0.0	0	0	0.0	0	8	0.0	4	10	40.0	7	2	17	19	8	2	5	0	55:17	8.0
平塚天清	SF	29	11	34	32.4	3	8	37.5	8	25	32.0	4	8	50.0	6	10	16	26	9	3	2	1	87:33	25.0
TOTAL		257	86	295	29.2	20	94	21.3	64	195	32.8	64	108	59.3	64	48	123	171	76	49	51	6	800:00	



■選手の日誌から

#4 高山 晃

①今大会参加して（感想）

今回、キャプテンとしてアジア大会に出場して色々な経験ができて良かったです。

②チームとして相手に通用したこと

日本の走るバスケットが通用したことです。

③チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンドが通用しなかったです。

④個人として相手に通用したこと

走るスピードとスタミナが通用したことです。

⑤個人として相手通用しなかったこと

リバウンドとパワーです。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

オーストラリアと試合をして、スタミナとスピードの強化を発揮できたことが、これまでやってきたことが正しかったとわかりました。

⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

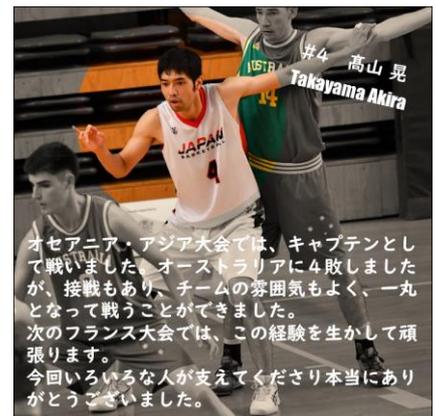
速攻と状況判断の精度を上げることです。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

外国人に負けないフィジカルとテクニックを上げ、状況判断をしっかりしてグローバル大会に向けて頑張りたいです。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

色々な人に支えていただきありがとうございました。この経験を生かしてレベルアップをしていきます。



#5 渡辺 稜

①今大会参加して（感想）

日本選手団の主将として参加することができて光栄です。

②チームとして相手に通用したこと

日本チームの強みである走るバスケットです。

③チームとして相手に通用しなかったこと

フィジカル面とリバウンドです。

④個人として相手に通用したこと

ペイントアタックからの合わせのパスを出せたことです。

⑤個人として相手通用しなかったこと

アジリティー、スキル、バスケット IQ です。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

正しいと思います。

⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

各自が今まで取り組んできたことを質を高めて取り組むことです。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

今まで取り組んできたことを質を高めて取り組むことです。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

様々な方々が支援やサポート、応援があつたので、誠にありがとうございました。結果として良い報告ができず大変申し訳ありませんでした。



#6 渡辺 翔平

①今大会参加して（感想）

4試合戦って自分は当たり負けが多く、身体が弱いと痛感しました。

②チームとして相手に通用したこと

速攻で勝っていたところです。

③チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンド、シュート力、フィジカル。

④個人として相手に通用したこと

ドライブには自信がありました。

⑤個人として相手通用しなかったこと

フィジカルです。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

正しかった。

⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

フィジカル強化とシュート力を上げる練習が必要。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

体育館が空いている時はシュート練習やランニングを行う。仕事が終わったらジムに行き筋トレを行う。晴れている日はランニング 5km 走って体力をつける。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

次回の大会では銀メダル以上を目指します。



#7 岡庭 ペドロカルロス龍之介

①今大会参加して（感想）

パワー、はんだんの早さが日本とはちがいました。もっとパワーをつけなきゃいけないと思いました。

②チームとして相手に通用したこと

チームディフェンスからそっこうにいけないことです。

③チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンドがまったくとれませんでした。

④個人として相手に通用したこと

シュートフェイクをするとシュートがうてました。

⑤個人として相手通用しなかったこと

センタープレイのパワードリブルがまったくつうようじゃありませんでした。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

正しかったです。オーストラリアのあたりにたいしてもたおされることはありませんでした。

⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

フィジカルを強化し、もっとはしれるようにするべきかと思います。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

体重をへらしてはしります。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

相手のセンターと戦い、一回もかつことができませんでした。これからももっと練習して次の大会でかてるようにトレーニングします。おうえんありがとうございました。



#8 末永 健翔

① 今大会参加して（感想）

とても楽しく試合に取り組みました。試合は負けてしまいましたが、学ぶものが多くあり、課題も明確になったので良かったと思います。

② チームとして相手に通用したこと

ブレイク、マン・ツー・マンディフェンス、アタックからのキックアウト。

③ チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンド、ポストプレイ、フィジカル。

④ 個人として相手に通用したこと

アタック、外角からのシュート、ディフェンス。

⑤ 個人として相手通用しなかったこと

フィジカル。

⑥ 今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

正しかった。

⑦ 今後、チームとしてどのように取り組むべきか

しっかり強化していけたらいいと思います。

⑧ 今後、個人としてどのように取り組むべきか

フィジカルトレーニング、ラントレ、スキルアップのメニューを増やす。大きい相手へのフィニッシュをしっかりと決めるように日々イメージしてプレイする。シューティングパーセンテージの改善。ターンオーバーを減らす努力と工夫をする。ポイントゲッターとしての役目をしっかり果たせなかった。しっかり自覚を持ってハードワークしていく。

⑨ サポートしていただいた方々へのメッセージ

残念ながら銀メダルという結果になってしまいました。次大会では優勝、金メダルを獲得したいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



#9 神尾 剛史

① 今大会参加して（感想）

世界ランキング上位と試合をして身体の大きさ、パワーを知ることができ、いい経験になりました。

② チームとして相手に通用したこと

ブレイクとディフェンスが通用したと思います。

③ チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンドが取れなかった。

④ 個人として相手に通用したこと

2メンゲームは通用しました。

⑤ 個人として相手通用しなかったこと

ディフェンスとボックスアウトが通用しませんでした。

⑥ 今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

リバウンドが取り組めなかったので強化していきたい。

⑦ 今後、チームとしてどのように取り組むべきか

オフェンスからディフェンスの切り替えを早くしたほうが良いと思います。

⑧ 今後、個人としてどのように取り組むべきか

体力をつける。



⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

色々な人たちに応援してもらい、自分の力を発揮できるように頑張りましたがオーストラリアに負けてしまったので、今後の練習でスキルアップをしていきたいです。

#10 根津 友和

①今大会参加して（感想）

バスケは2チームしか参加しなかったですが、オーストラリアと4試合も行い、貴重な経験でした。今大会は25か国が参加しており、他国の人々ともバッジ交換や話ができとても貴重でした。話の意味はわからなかったですが、もっと他国の人と関わりを持ちたいと思い、少し会話できるように英語の勉強をしたくなりました。

②チームとして相手に通用したこと

ペイントアタックからのキックアウトのプレイ、ブレイク、スクリーンからのエクストラパス、フローターシュート。

③チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンド、ゴール下です。

④個人として相手に通用したこと

ペネトレイトとカットインのプレイが通用しました。

⑤個人として相手通用しなかったこと

レイアップシュート。レイアップシュートでステップを変えるとファウルがもらいやすい。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

ジムに通い、身体を鍛えたことと、ランニング、ダッシュのメニューを取り入れたことは正しかったです。

⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

この4試合で多くの課題がありました。それをクリアしていく必要があります。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

今までの練習ではダメで、質や量を増やすことと、IQを高めることです。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

オーストラリアでの10日間は貴重な経験でした。この経験を次に生かしていきます。本当にありがとうございました。



#11 平塚 天清

①今大会参加して（感想）

久しぶりの大会だったので緊張してなかなかプレイができませんでした。後から落ち着いてプレイができるようになりました。

②チームとして相手に通用したこと

速攻がたくさん通用したことです。

③チームとして相手に通用しなかったこと

リバウンド、フィジカル、シュート力で負けていました。

④個人として相手に通用したこと

ボックスアウトをしてリバウンドが取れたこと。

⑤個人として相手通用しなかったこと

アタックしましたが、ブロックされ当たり負けしたことです。

⑥今まで取り組んできたことは正しかったか、正しくなかったか

正しかったと思います。



⑦今後、チームとしてどのように取り組むべきか

身体作りや、シュート力に取り組むべきだと思います。

⑧今後、個人としてどのように取り組むべきか

宮崎に帰っても、大会であったことを忘れずに練習していききたいと思います。

⑨サポートしていただいた方々へのメッセージ

応援していただきありがとうございました。



2022 年度 FID 日本男子・女子代表チーム

サポート企業・団体・サポーター様

株式会社デンソー様

株志会社アイズ・カンパニー様 株式会社 CIJ ネクスト様
Gio Code 株式会社様 株式会社笹森様
双葉産業株式会社様

株式会社誠行社様 株式会社スクエアワン様 株式会社山咲様
株式会社高速産業様 株式会社三寶天壽企画様
株式会社 EIGHTIST 様 わだ薬局様

いよいよ株式会社様 ナトリ電設株式会社様
株式会社ほけんの 110 番様 横浜税理士法人様

特定非営利活動法人まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.様
株式会社 OJI 様 株式会社 THL 様

秋葉原補聴器株式会社様 まち食堂あづま様 株式会社 CIS 様
株式会社アヴェイル様 ヒーローズスポーツコミュニティ株式会社様
採用と教育研究所様

山口 麻衣様 中村 一雄様 野田 悟様 須藤 昭宏様 須藤 昂矢様
山田 謙治様 関 得男様 山ノ井 啓介様 中村 昭男様 高橋 明浩様
松尾 直哉様

多大なるご支援ご声援、連盟一同感謝申し上げます

